

## 12. 新大陸発見

アメリカ大陸を発見したのは 1492 年コロンブスであることは常識として誰でも知っていることです。教科書にも記載されており、信じて何の疑いもありません。でもいろいろと疑ってみるのも歴史の面白さです。

確かにコロンブスはアメリカ大陸を発見した最初の人物とされていますが、厳密にいうと「大航海が始まる時代の初期にアメリカ大陸に偶然に到達した最初のイタリア人」という表現が妥当なのです。

コロンブスはスペイン国王の支援をうけて黄金の国ジパングや胡椒をはじめとする香辛料の産地である島々、特に丁字（グローブ）の産地であるモルッカ諸島への憧れは大変なものがありました。場所はフィリピンの南にハルマヘラ島があり、その西側にテルナテ島とティドレ島という小さな島があり野生の丁字が繁殖していたのです。後にマゼラン船隊の最後に残った 1 隻がこの島に辿り着き船腹一杯の香辛料を持って帰国した乗組員は生涯安楽に暮らせる様な財産を築いたそうです。

コロンブスも夢と希望を大いに膨らませて西行航路開拓に向かったわけです。ヨーロッパの人達はシルクロードによってアジアの知識はあり、その特産品はもの凄い高価なものであり、その交易を熱望し、さらには独占したいという野望を国王はもったのでしょう。ですからコロンブスへの支援にも熱が入ったので、コロンブスとしても発見した大陸はアジアの一角だと報告したかったのでしょう。その後も計 4 回この探検航海をしながら新大陸とは気付かず、インドの一部だと報告しています。

その後に探検したイタリアの探検家アメリゴ、ヴェスプッチが新大陸発見とローマ法王に報告し、その後ドイツの地図制作者マルティーン・ヴァルト・ゼーミュラが発見者の名からアメリカ大陸と命名して地図に記載、それが定着してアメリカになりました。もしコロンブスが新大陸発見者だと申告していれば、コロンブス大陸と命名され、コロンブス合衆国が誕生していたかもしれません。

コロンブスの名は、パナマ運河のカリブ海側にコロンという小さな港街に僅かに残っているだけです。

さて新大陸発見に戻ります。古代北欧の叙事史の中で活躍する「サーガ」という女神がありますが、12 世紀～14 世紀に北欧で編纂された散文型式の文学作品にサガの名を冠して、主にノルマン人の植民前後の歴史的な出来事を年代風に記述したものがあります。

このサガの代表的なものに「王のサガ」「伝説のサガ」「アイスランドのサガ」があります。

北欧に住むノルマン人が南航路（主にイギリス・地中海方面）東航路（バルト海からロシア・ウラル山脈付近まで）北航路がアイスランドとグリーンランドという広大な地域に遠征した、或いは民族大移動と言われておりますが、きっかけはまだよく分かりません。



(再現したロングシップ)

(赤毛のエリックの想像図)

ヴァイキングと呼ばれ、海賊と解釈されていますが、北欧の学者は猛反発しており、地元では普通の農民や漁民が交易や植民を求めてそれぞれの地域に遠征したのだと主張しております。確かに故郷では普通に暮らす農民や漁民ですが、手工業的な技術は当時世界最高水準ではなかったかと思われます。ですからロングシップと呼ばれる喫水の浅く細長い舟を操り、外洋では帆走もでき、主に多数の人達によるオールで漕ぐことを主にして、浅い河を辿って内陸深く入っております。また陸上では舟を引っ張って移動したとありますから、舟の外板は獣皮で造ったようです。高度の技術は航海術にもあり外洋を航行して、アイスランドに植民し、更にグリーンランドに達した(982年)のがヴァイキングの子孫「赤毛のエリック」です。そしてアイスランド生まれの長男レイフがグリーンランドの西側沿岸はより豊かであることを発見し、こちらを本拠地として探検を行い、997年対岸に大きな島を発見、これを「ヘルランド」と命名、現在のバフィン島です。更に南下して別の大地を発見「マルク・ランド」と命名、カナダのラブラドル地方です。更に南下して小麦が自生する豊かな土地に上陸、ブドウの国という「ヴィンランド」を命名しています。

ノバスコシア半島を廻って多分現在のメイン州付近に上陸したかと思われます。そして一旦グリーンランドに戻り(1000年)、入植者数百人を連れて再び移住したとサガに記載されております。ではどのような船で大西洋を横断したのでしょうか? ノルウェーの博物館にはオゼベルクの櫂船が発掘(1904年発掘)されたままの状態で見学されています。これは長さ約23m、幅約4m、喫水の浅い木造鎧張りの船で、ヴァイキングが嘗て使用していた典型的な船形です。

サガの記録によれば、船の中央付近の高い帆柱に大きな一枚帆を掲げ、15人の漕ぎ手が片舷に並んで漕ぎ、平均速力は10~11ノット(時速約20km)で、ノルウェーのベンゲルからグリーンランドに沿って南下しカナダ東部のニューファンドランド島セントジョーンズまで約4000マイル(約6400km)を27日間で航海したと記録されています。

従ってコロンブスが発見したと称する500年も以前に新大陸に渡り、植民まで行われていたのです。ただこの植民はうまくいかず先住民とのトラブルで滅亡したといわれています。

この史実を認めない学者が多数おりましたが、つい最近の1960年代以降、ニューファンド

ランド島北西部のランス・オー・メドー村でヴァイキングの女性が使う糸車や鍛冶屋の跡地が発見され、イングランド製のボタンが発見されました。インディアンは製鉄技術がありませんから明らかにヴァイキングの遺跡であることは間違いありません。ランス・オー・メドー国立歴史公園として保存され、世界遺産として登録されたのでこの史実は世界公認となったわけです。

このレイフとコロンブスの航走距離を比較するとレイフの航走距離は半分くらいになります。地球は球ですから南と北では経度幅が異なります。赤道上と北緯 60 度の同じ経度幅は半分になり、簡単な計算で  $\text{Cos}60^\circ = 1/2$  です。

しかもアイスランド・グリーンランドと中継基地がありますからしたから手漕ぎ舟でも季節によっては渡海できたのも頷けます。